

会 議 録

会 議 名	第1回 淡路人形浄瑠璃保存伝承検討委員会	
開 催 日 時	令和4年7月21日（木）午後1時30分～午後4時00分	
開 催 場 所	南あわじ市役所第2別館 第5会議室	
出席者	委 員	森 紘一、徳永 高志、寺内 直子（リモート）、島田 貞洋、 山崎 大樹、木下 紘二、諏訪 芳美
	事 務 局	仲山 和史（教育委員会次長） 谷口 信介（公認会計士） 福田 龍八（淡路人形座統括責任者） 阿萬野 真司（社会教育課長） 眞野 匡史（社会教育課係長）
	オブザーバー	福原 敬二（淡路人形協会事務局長）
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 委嘱状交付式 3. 議 事 <ol style="list-style-type: none"> （1）委員長及び副委員長の選出について （2）淡路人形座及び公益財団法人淡路人形協会の現状と課題について 4. 閉 会 	
議 事 要 旨	別紙のとおり	

淡路人形浄瑠璃保存伝承検討委員会 議事要旨

○ 議 事

(1) 委員長及び副委員長の選出について

- 委員の互選により、委員長及び副委員長が選出された。

委員長：森 紘一 副委員長：寺内 直子

(2) 淡路人形座及び公益財団法人淡路人形協会の現状と課題について

- 委員からの意見（要旨）

【財 政】

- ・H27年度から2,000万円の補助金に加え、ふるさと納税を活用した補助金を投入して、まだいくら足りないのか？次回の検討委員会に説明できる資料を用意すること。
- ・行政だけのバックアップでは限界があり、市補助金を一定額にし、他のところからも協力金を要請することも考えていくべきである。
- ・現在の公益財団法人は税制上の優遇を受けられるが、2期連続して300万円の債務超過で解散になる。
- ・チケット販売に加え、公的資金の獲得やグッズ販売など出来ることはやっていかなければ、入場料収入だけでは厳しい。
- ・島外の公演では集客力がある。
- ・国や県に淡路人形浄瑠璃の事業として、補助事業メニューの予算化を強く要望していくべきである。

【伝 統】

- ・国の重要無形民俗文化財に指定され、どこに出しても素晴らしい文化財である。
- ・伝統を守るためには収益を得る必要がある。そのためには、新しいことに挑戦を行い、集客力を強化しなければならない。そういう考え方を理解していく必要がある。
- ・地元の人がリピーターとして何度も来てもらうようにならないといけない。インバウンドや観光客は魅力だが、やはり地元で愛される取り組みが必要と考える。
- ・国指定重要無形民俗文化財「淡路人形浄瑠璃」の前進は、文化財（守り）と観光資源（攻め）の両立が必要不可欠である。
- ・コアな顧客の評価やニーズ等に耐えうるレベルの高さが求められる。

- ・ 伝統を守りつつ、他の芸能分野とのコラボや販売等を積極的に行う。
- ・ 進むべき道を誤ったり、ブレたりすることの無いよう、国指定重要文化財としての重みと伝統の保存伝承をいかに守って行くのかを芯に据えて、今後の方向性を議論しなければならない。

【観 光】

- ・ 観光客の増減によって、人形座の集客も影響が出てくる。
- ・ 文化振興を保全するために見せる。見せて収入を得て、それを保全活動に繋げるという意図で観光業者もサポートしており、守るだけに特化してしまうと、見るルールを制限してしまい、お客の幅が広がらない。
- ・ 現在、淡路島には1日2,000~3,000人の宿泊者があり、その宿泊者に淡路人形をPRすることで、少しでも集客につながればと思う。感動した人は友達を連れてくる。
- ・ 淡路島の人口が約13万人、京阪神で約1,000万人と母数が違う。母数が小さいところは苦しいことを常に感じている。
- ・ 旅行形態は、格安の団体旅行(安・近・短)から高付加価値のツアーに移行している。
- ・ 海外旅行者や団体旅行者がほぼゼロに近い状態で、若い層にも興味を持ってもらい集客に繋げていく必要がある。

【その他】

- ・ インターネット社会の中、アナログ的なチケット販売に座員が時間を取られている。自動化・機械化にしていくことも必要である。
- ・ 貸館を含め劇場としての活用方法と計画を立てる必要がある。
- ・ 方向性を定め指示するディレクター、立案と企画できるプロデューサー、補助金をリサーチできるスタッフといった人材の投入をどのように検討するか重要である。
- ・ 構造改革まで念頭に入れて行う覚悟が必要である。